

岡山県感染症週報 2017年 第21週 (5月22日～5月28日)

【お知らせ】 「2016/2017年シーズン 岡山県インフルエンザ発生状況のまとめ」を掲載しました。

◆2017年 第21週 (5/22～5/28) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第19週 2類感染症 結核 2名 (40代 女 1名、60代 男 1名)

第20週 5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (50代 女)

梅毒 2名 (30代 男)

第21週 2類感染症 結核 3名 (20代 男 1名、30代 男 1名、50代 男 1名)

5類感染症 梅毒 2名 (40代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○流行性角結膜炎は、県全体で 23 名 (定点あたり 1.42 → 1.92 人) の報告があり、前週より増加しました。

○咽頭結膜熱は、県全体で 31 名 (定点あたり 0.39 → 0.57 人) の報告があり、前週より増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 338 名 (定点あたり 7.30 → 6.26 人) の報告があり、前週より減少しました。

【第22週 速報】

○岡山市内の幼稚園 1 施設で感染性胃腸炎による学校等の臨時休業がありました。(5月30日)

1. **流行性角結膜炎**は、県全体で 23 名 (定点あたり 1.42 → 1.92 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市 (4.50 人)、備中地域 (2.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14 日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂 (目やに)、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど、拡大防止に努めてください。
2. **咽頭結膜熱**は、県全体で 31 名 (定点あたり 0.39 → 0.57 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、美作地域 (0.83 人)、岡山市・備中地域 (0.71 人)、倉敷市 (0.64 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域と美作地域を除く全ての地域で、患者が増加しています。この感染症は、主にアデノウイルスに感染することによる小児の急性感染症です。症状は、発熱、のどの痛み、結膜の充血、眼痛、眼脂 (目やに) などです。患者との接触を避けること、流行時に手洗いやうがいを実施することなどが予防法となります。今後の県内の発生状況に注意するとともに、感染予防と拡大防止に努めてください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で 338 名 (定点あたり 7.30 → 6.26 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市 (8.79 人)、備北地域・真庭地域 (7.50 人)、備前地域 (6.30 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

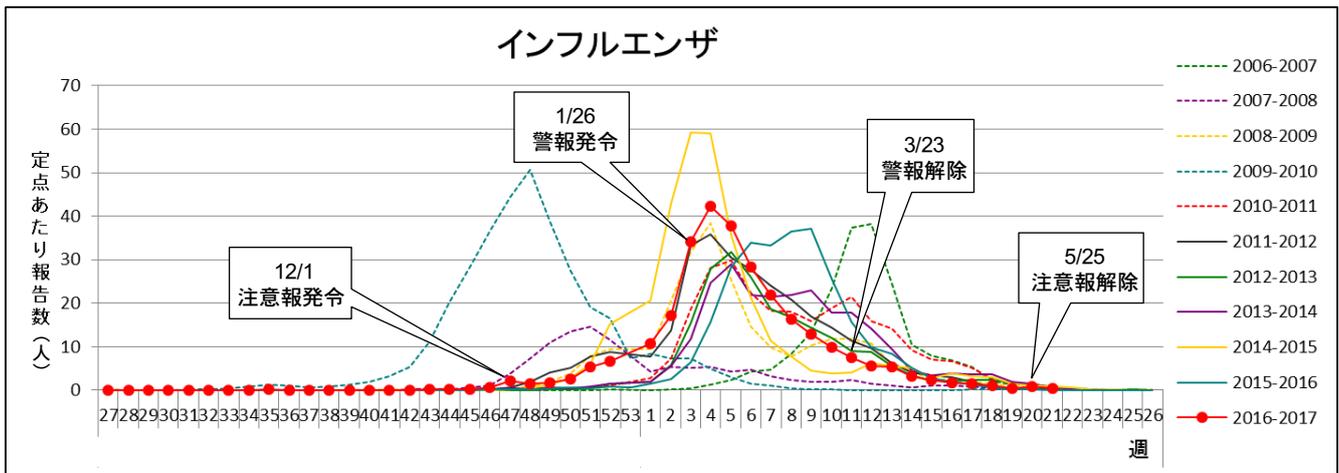
【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

岡山県 インフルエンザ発生状況

(2016/2017 年シーズン流行のまとめ)

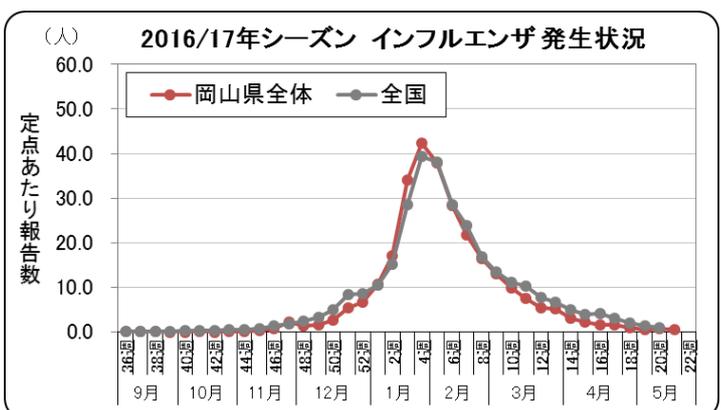
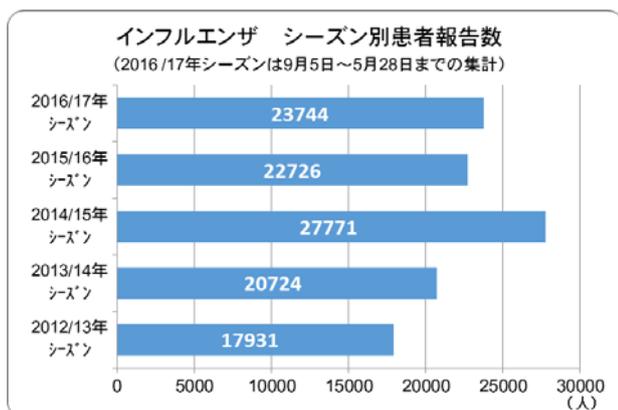


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

2016 / 2017 年シーズン (2016/9/5~2017/9/3) のうち、2017 年 5 月 28 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました (県内 84 定点医療機関報告)。

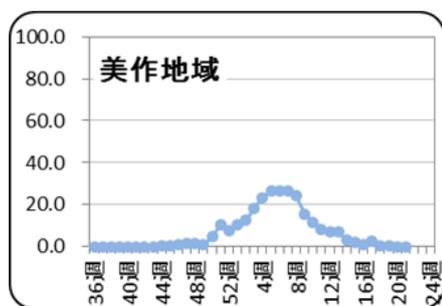
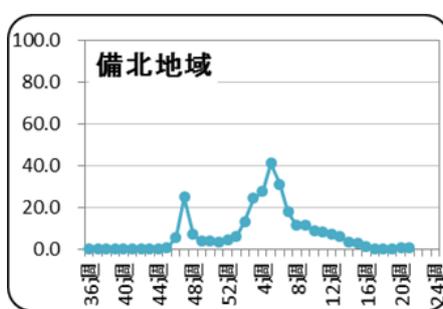
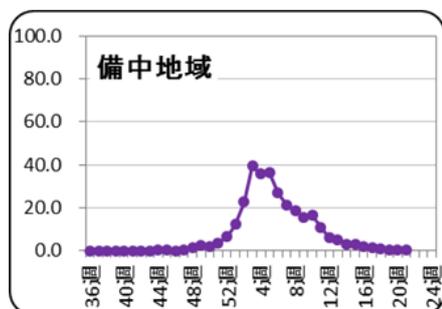
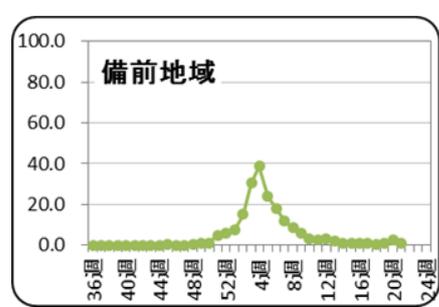
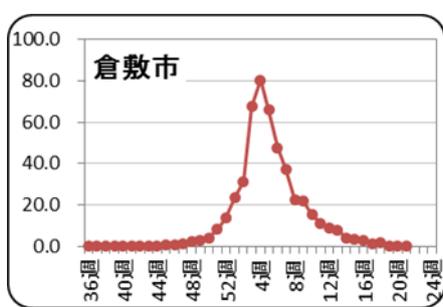
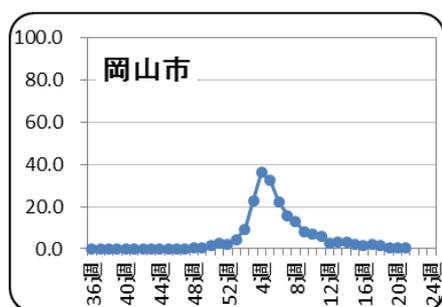
今シーズン、岡山県の患者報告数は、23,744 人となり、過去 5 シーズンで 2 番目に多い報告数となりました。2016 年 第 36 週 (9/5~9/11) に初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生していました。第 47 週 (11/21~11/27) には定点あたり 2.24 人となり、岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上まわったことから、12 月 1 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンで 3 番目に早く流行期に入り、その後、流行が拡大しました。2017 年第 3 週 (1/16~1/22) には定点あたり 34.18 人となり、警報発令基準の 30.00 人を上まわったため、1 月 26 日に「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。第 4 週 (1/23~1/29) にはピーク (42.29 人) を迎え、第 5 週以降、患者数は減少に転じました。その後、第 10、11 週と 2 週連続で定点あたり 10.00 人を下まわったため、警報から注意報に切り替えました。5 月中旬の第 19 週 (5/8~5/14) には 0.49 人、第 20 週 (5/15~5/21) には 0.75 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下まわりました。そのため、岡山県に発令されていた「インフルエンザ注意報」は 5 月 25 日をもって解除となり、今シーズンの県内のインフルエンザの流行は、ほぼ終息したと考えられます。

全国では、2016 年 第 46 週 (11/14~11/20) に定点あたり 1.38 人となり、例年よりも早く流行期に入りました。その後、岡山県とほぼ同様に推移し、2017 年第 4 週 (1/23~1/29) には定点あたり 39.41 人となり、流行のピークを迎えました。以降、患者数は減少をつづけ、第 20 週 (5/15~5/21) には定点あたり 1.05 人となり、熊本県の一部の地域を除き、注意報レベル (全国の発令基準 : 10.00 人) を下まわりました。



1. 地域別発生状況

地域別でみると、2016年第36週（9/5～9/11）頃から、備中地域と美作地域以外の地域で散発的に患者が報告され始め、備北地域を中心に流行が拡大していきました。第51週（12/19～12/25）には、報告数が少なかった真庭地域（0.33 → 5.33人）でも流行開始の指標を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市 36.23人（第4週）、倉敷市 80.38人（第4週）、備前地域 38.80人（第4週）、備中地域 39.33人（第3週）、備北地域 41.17人（第5週）、真庭地域 34.00人（第5週）、美作地域 26.60人（第5週）でした。各地域とも、第3～5週（1/16～2/5）をピークに、患者数は、わずかに増減を繰り返しながら減少をつづけました。第21週（5/22～5/28）には、全ての地域で定点あたり1.00人を下まわり、今シーズンの流行は、ほぼ終息したと考えられます。



岡山県インフルエンザ発生レベルマップ

2016/2017 年シーズン(2016年9月5日から)の動き



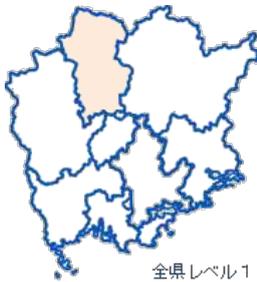
※感染症発生動向調査は、岡山県を7つのブロックに分けて情報収集しています。

- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域 (オレンジ)
- ・備中地域 (黄)
- ・備北地域 (緑)
- ・真庭地域 (ピンク)
- ・美作地域 (青)

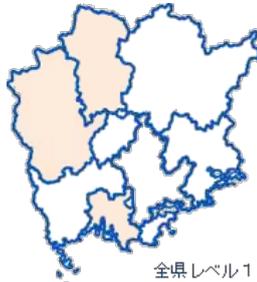
レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

第36週～第37週
2016/9/5～9/18



第38週
9/19～9/25



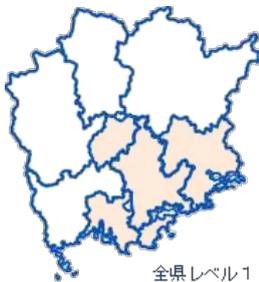
第39週
9/26～10/2



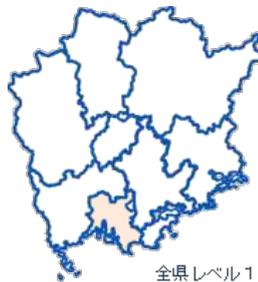
第40週
10/3～10/9



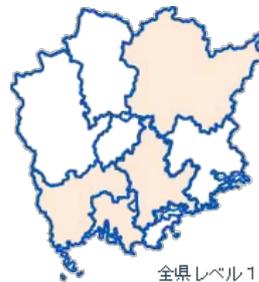
第41週
10/10～10/16



第42週
10/17～10/23



第43週
10/24～10/30



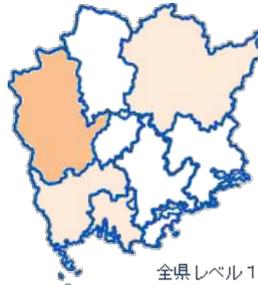
第44週
10/31～11/6



第45週～第46週
11/7～11/20



第47週
11/21～11/27



第48週～第50週
11/28～12/18



第51週
12/19～12/25



第52週

12/26 ~ 1/1



第1週

1/2 ~ 1/8



第2週

1/9 ~ 1/15



第3週

1/16 ~ 1/22



第4週

1/23 ~ 1/29



第5週~第7週

1/30 ~ 2/19



第8週

2/20 ~ 2/26



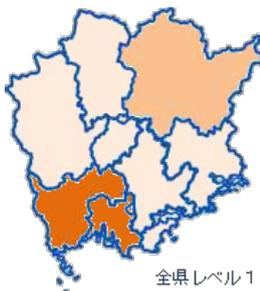
第9週

2/27 ~ 3/5



第10週

3/6 ~ 3/12



第11週

3/13 ~ 3/19



第12週

3/20 ~ 3/26



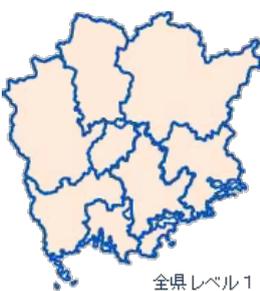
第13週

3/27 ~ 4/2



第14週~第17週

4/3 ~ 4/30



第18週

5/1 ~ 5/7



第19週

5/8 ~ 5/14



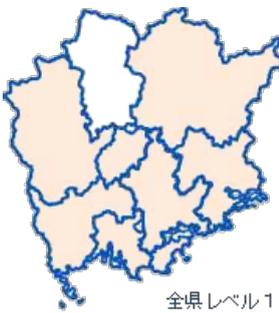
第20週

5/15 ~ 5/21



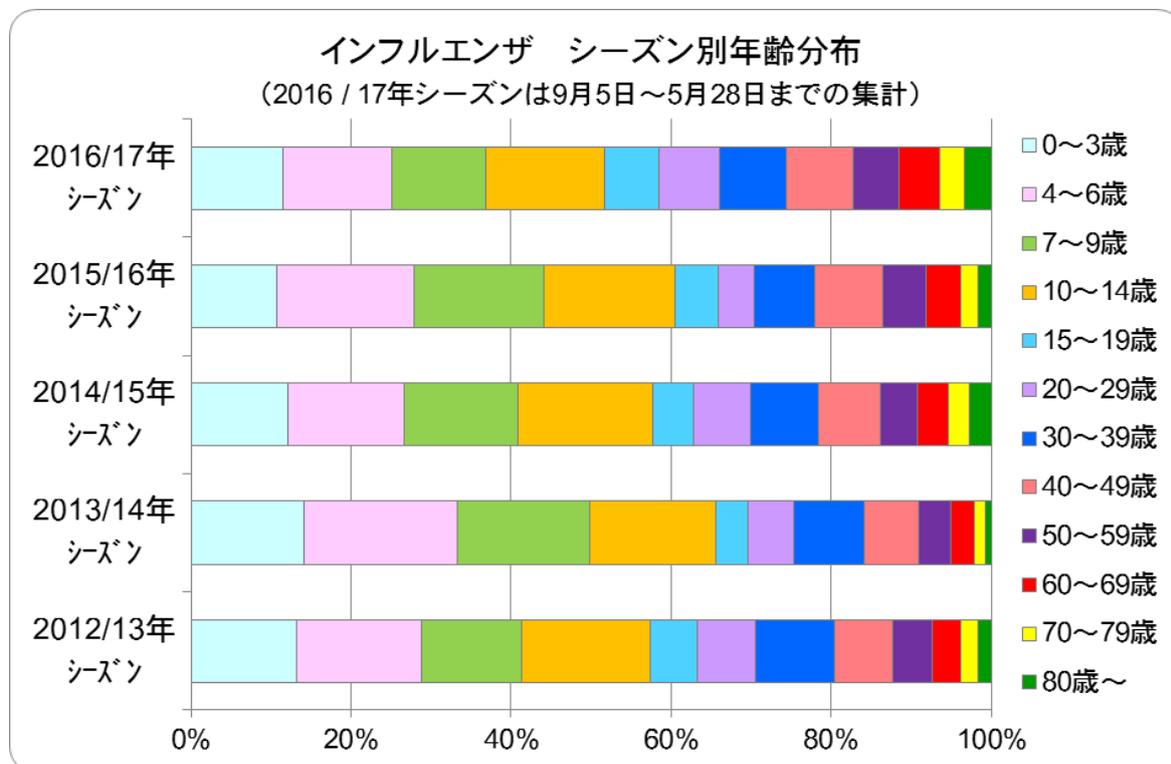
第21週

5/22 ~ 5/28



2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、10～14歳が最も高く（14.9%）、つづいて4～6歳（13.6%）、7～9歳（11.7%）の順でした。昨シーズンと比較して、幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層での割合が減少し、15歳以上の各年齢層の割合が増加しました。



※インフルエンザシーズンは、第36週から翌年第35週までを1シーズンとして集計しています。

3. インフルエンザウイルス検出状況

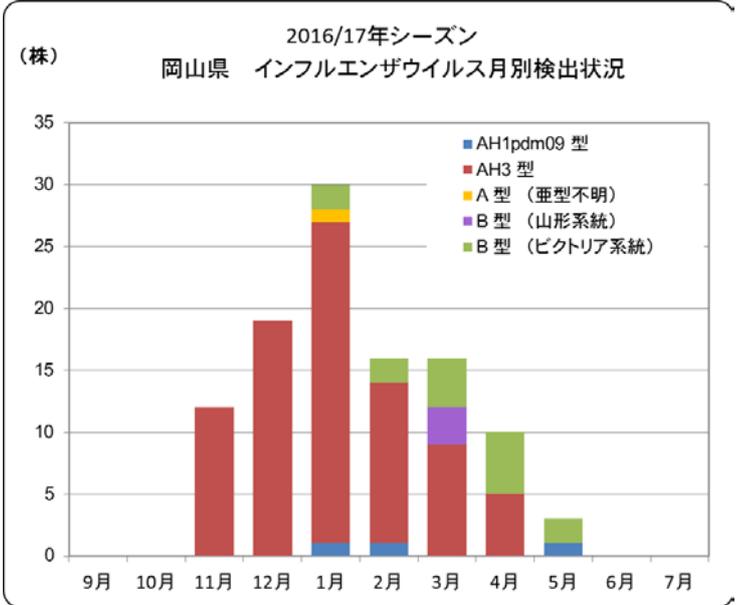
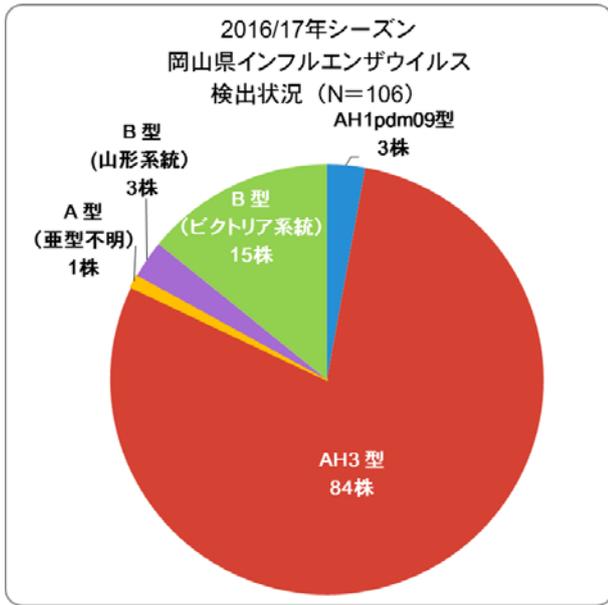
今シーズン（2016/9/5～2017/9/3）のうち、2017年5月28日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス106株の検出割合は、AH3型84株（79%）が最も高く、次いでB型18株〔ビクトリア系統15株・山形系統3株〕（17%）、AH1pdm09型3株（3%）、A型（亜型不明）1株（1%）でした。昨シーズンは、AH1pdm09型、AH3型、B型（山形系統・ビクトリア系統）が検出されましたが、今シーズンは、2シーズンぶりにAH3型が主流となりました。

月別検出状況は、AH3型が11月上旬から検出され始め、3月までは、AH3型が主流となりました。また、1月からAH1pdm09型、B型が検出され始め、2月以降は、徐々にB型（ビクトリア系統）の割合が増加しました。

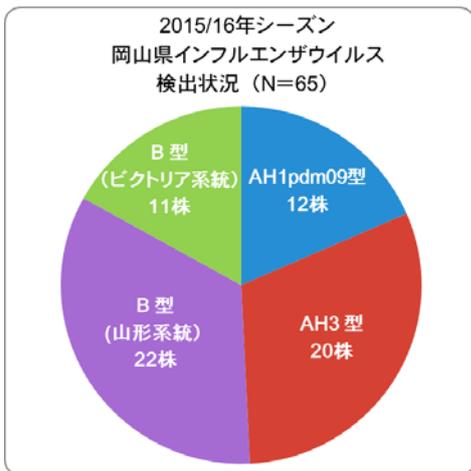
全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型6,820株（83%）、次いでB型1,125株〔ビクトリア系統659株、山形系統442株、系統不明24株〕（13.3%）、AH1pdm09型228株（3%）の順でした。昨シーズンは、AH1pdm09型が主流で、複数のインフルエンザウイルスが同時期に流行しましたが、今シーズンは、AH3型が流行の大部分を占めました。（2017年5月26日現在）

[インフルエンザウイルス分離検出状況（国立感染症研究所）](#)

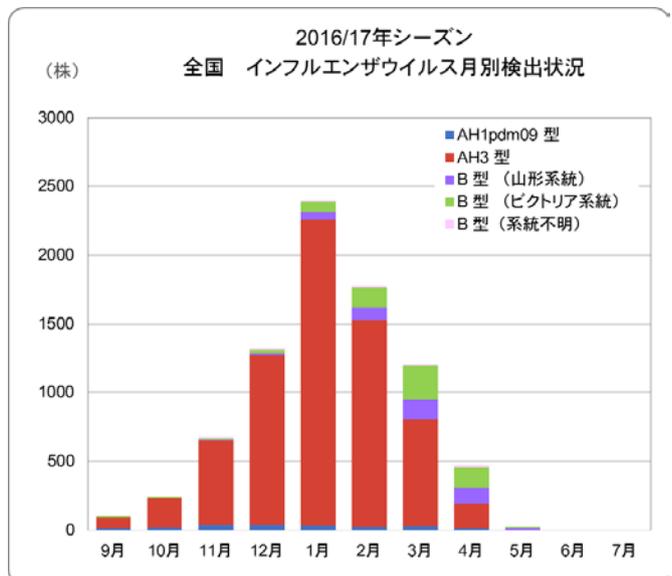
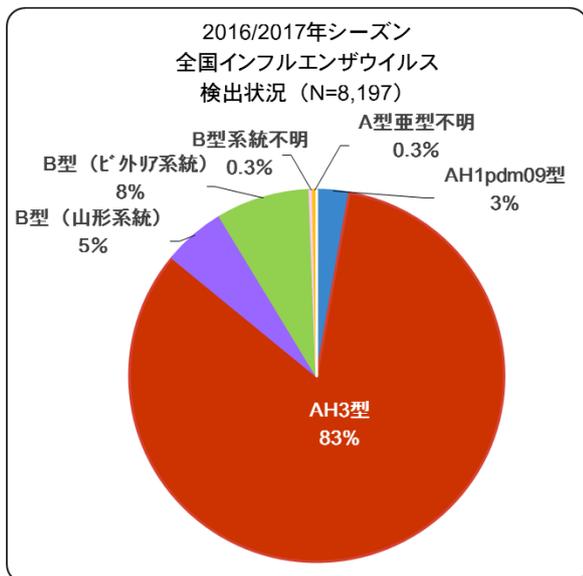
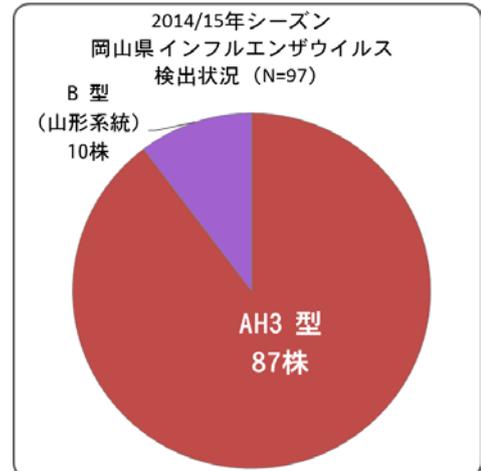
【2016/17年シーズン】



【2015/16年シーズン】

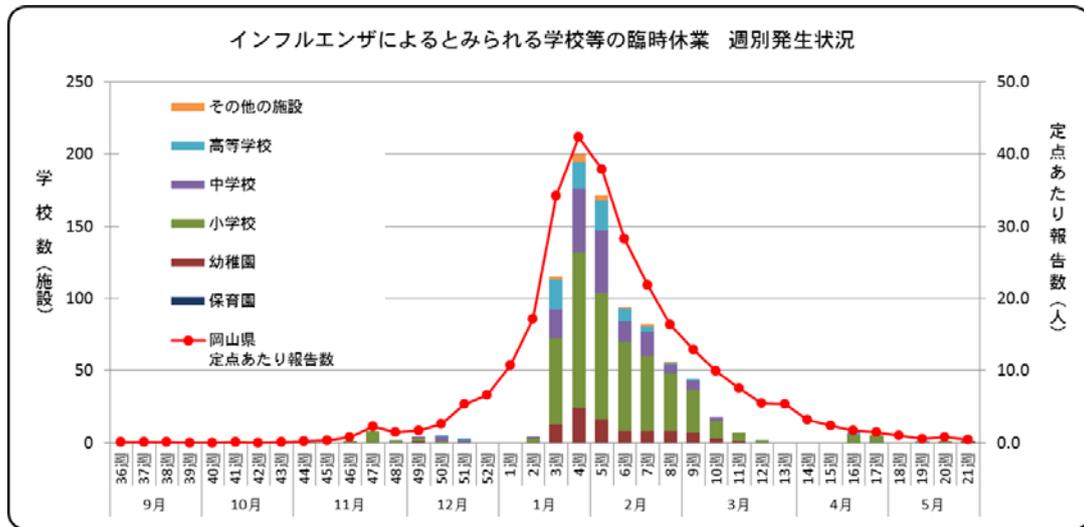


【2014/15年シーズン】



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズン（2016/9/5～2017/9/3）のうち、2017年5月28日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は832施設で、昨シーズン（854施設）より減少しました。施設別では、幼稚園90施設、小学校487施設、中学校160施設、高等学校80施設、その他15施設でした。初発は2016年11月2日で、昨シーズン（11月24日）より早い報告となり、今シーズンのピークには1週間に200施設の報告がありました。



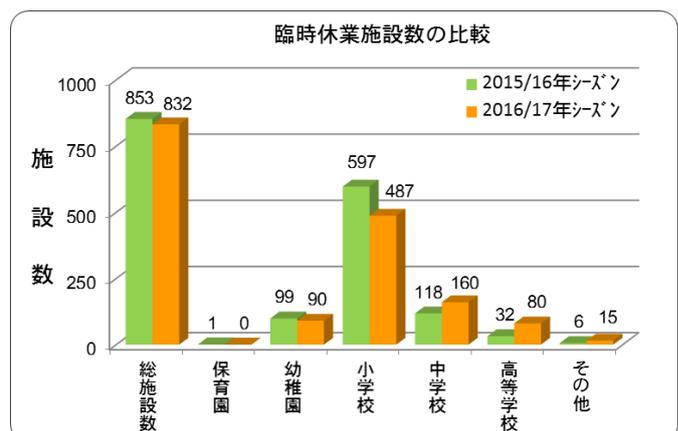
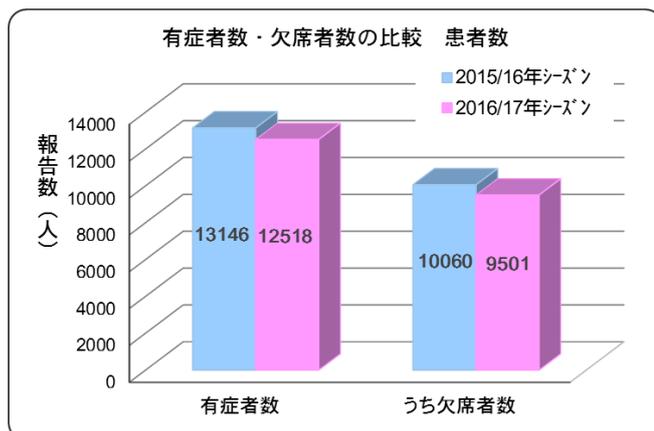
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	12518	9501	832	13	203	616	H28.11.2
岡山市	4617	3421	285	4	31	250	H28.12.12
倉敷市	3177	2472	203	—	22	181	H28.11.29
備前地域	1572	1252	113	1	41	71	H28.12.12
備中地域	1514	1146	103	1	43	59	H28.11.2
備北地域	587	403	43	4	21	18	H28.11.21
真庭地域	150	120	18	—	12	6	H29.1.16
美作地域	901	687	67	3	33	31	H28.11.16

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳 累計：832施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	0	90	487	160	80	15



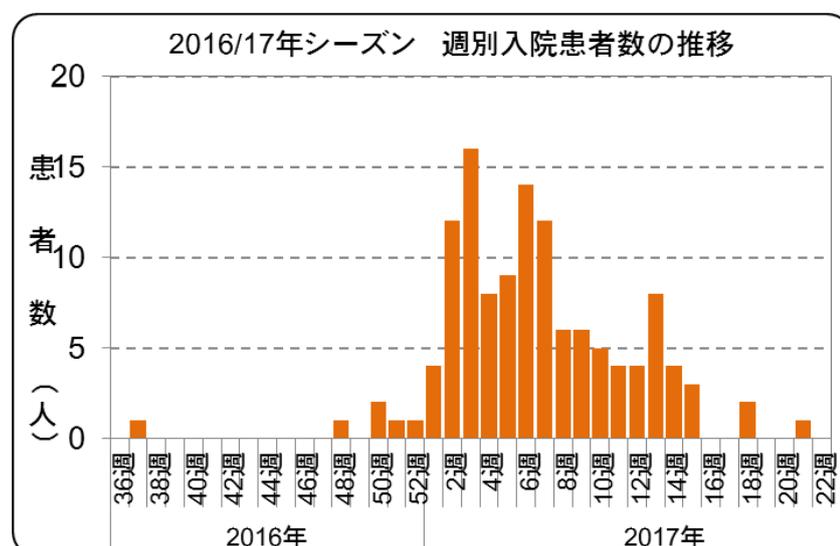
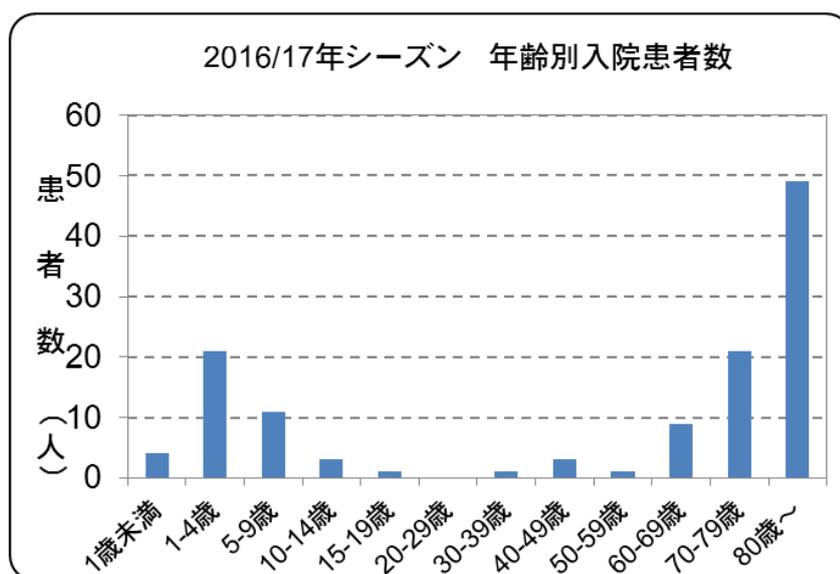
5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

今シーズン (2016/9/5~2017/9/3) のうち、2017 年 5 月 28 日までのインフルエンザによる入院患者数は、124 名であり、昨シーズン (93 名) より増加しました。年齢別では、9 歳以下 (29%) と 60 歳以上 (64%) が多くを占めました。週別では、第 3 週 (1/16~1/22) に入院患者数が 16 名となり、最も多くなりました。

【2016 / 2017 年シーズン (2016 年 9 月 5 日~2017 年 5 月 28 日) までの入院した患者の累計数】

年 齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	4	21	11	3	1		1	3	1	9	21	49	124
ICU 入室			2								1	1	4
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		1	3					1		2	4	15	26
頭部 MRI 検査(予定含)		3	3								1	2	9
脳波検査 (予定含)		1	2										3
いずれにも該当せず	4	17	8	3	1		1	2	1	7	17	34	95

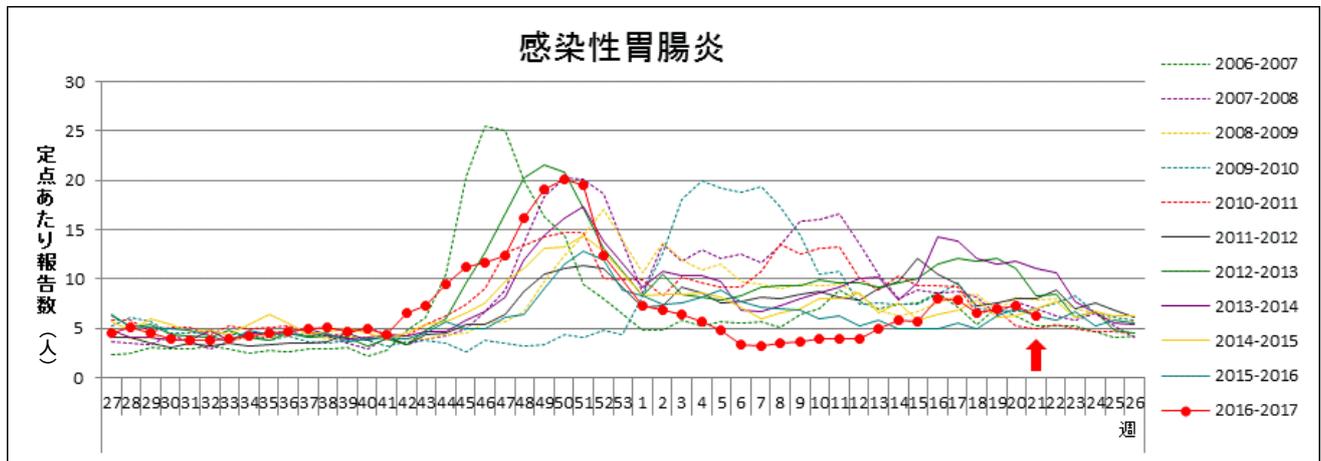
* 重複あり



感染性胃腸炎週報 2017年 第21週 (5月22日～5月28日)

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で338名(定点あたり6.26人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

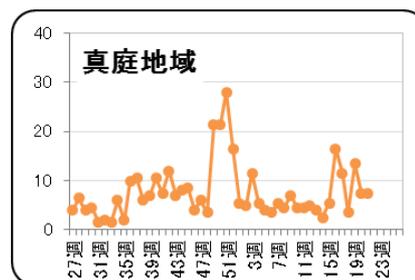
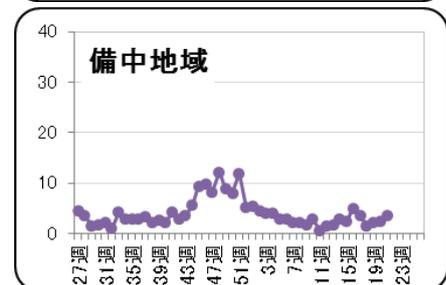
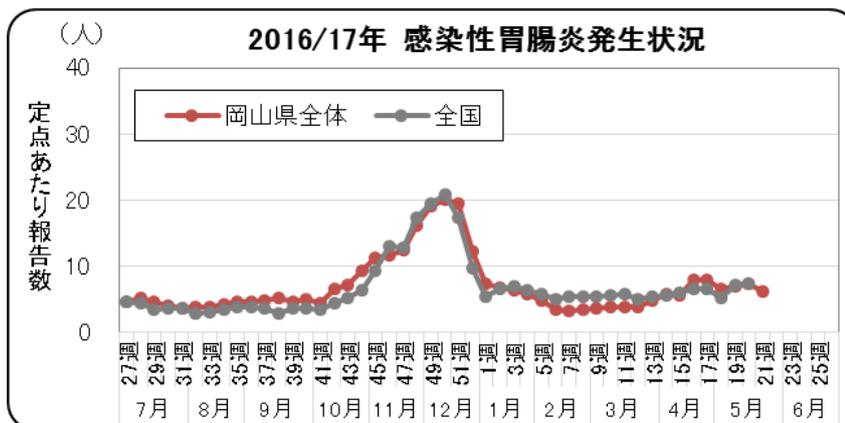


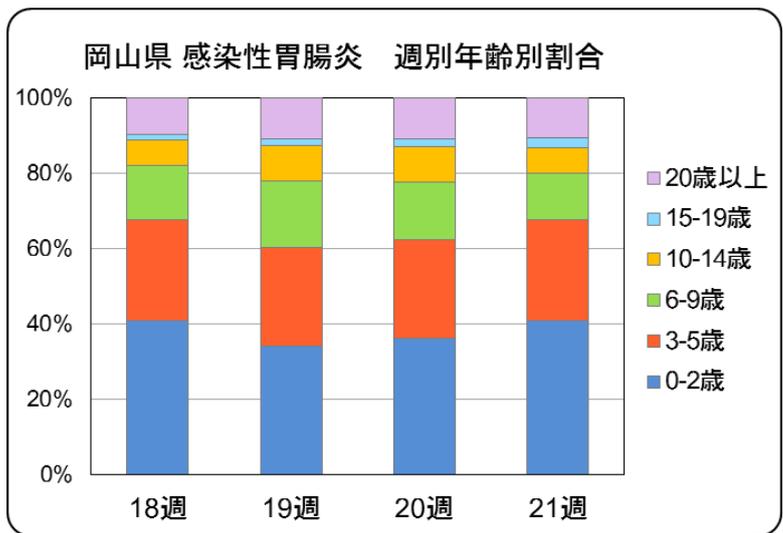
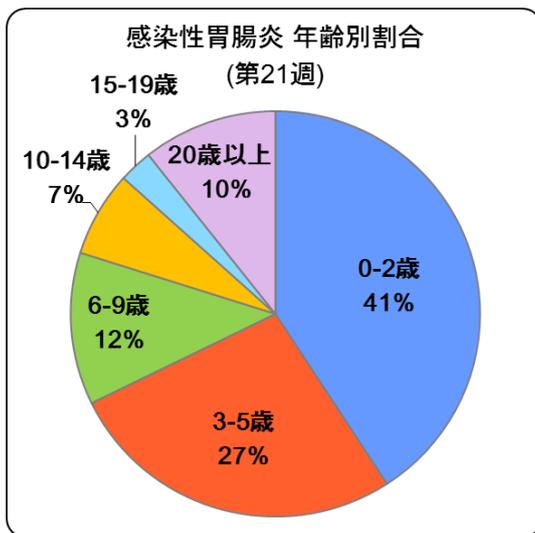
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で338名(定点あたり7.30→6.26人)の報告があり、前週より減少しました。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、岡山市（8.79人）、備北地域・真庭地域（7.50人）、備前地域（6.30人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第21週年齢別割合では、0-2歳41%、3-5歳27%、6-9歳12%の順となっており、5歳以下の乳幼児の割合が前週より高くなっています。

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
（食肉の生食は避けましょう。）

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2017年 21週(定点把握)

(2017/05/22～2017/05/28)

2017年6月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	40	0.48	15	0.68	2	0.13	11	0.73	6	0.50	4	0.67	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	4	0.07	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	31	0.57	10	0.71	7	0.64	1	0.10	5	0.71	2	0.50	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	1.11	27	1.93	17	1.55	8	0.80	1	0.14	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	338	6.26	123	8.79	54	4.91	63	6.30	25	3.57	30	7.50	15	7.50	28	4.67
水痘	28	0.52	6	0.43	8	0.73	3	0.30	5	0.71	1	0.25	4	2.00	1	0.17
手足口病	44	0.81	20	1.43	5	0.45	5	0.50	7	1.00	5	1.25	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	28	0.52	12	0.86	5	0.45	4	0.40	1	0.14	2	0.50	-	-	4	0.67
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	21	0.39	5	0.36	7	0.64	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	23	0.43	10	0.71	6	0.55	3	0.30	-	-	1	0.25	3	1.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	23	1.92	2	0.40	18	4.50	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 21週(発生レベル設定疾患)

(2017/05/22～2017/05/28)

2017年6月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	40	0.48	15	0.68	2	0.13	11	0.73	6	0.50	4	0.67	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	31	0.57	10	0.71	7	0.64	1	0.10	5	0.71	2	0.50	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	1.11	27	1.93	17	1.55	8	0.80	1	0.14	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	338	6.26	123	8.79	54	4.91	63	6.30	25	3.57	30	7.50	15	7.50	28	4.67
水痘	28	0.52	6	0.43	8	0.73	3	0.30	5	0.71	1	0.25	4	2.00	1	0.17
手足口病	44	0.81	20	1.43	5	0.45	5	0.50	7	1.00	5	1.25	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	21	0.39	5	0.36	7	0.64	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	23	0.43	10	0.71	6	0.55	3	0.30	-	-	1	0.25	3	1.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	23	1.92	2	0.40	18	4.50	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第21週 2017/05/22～2017/05/28)

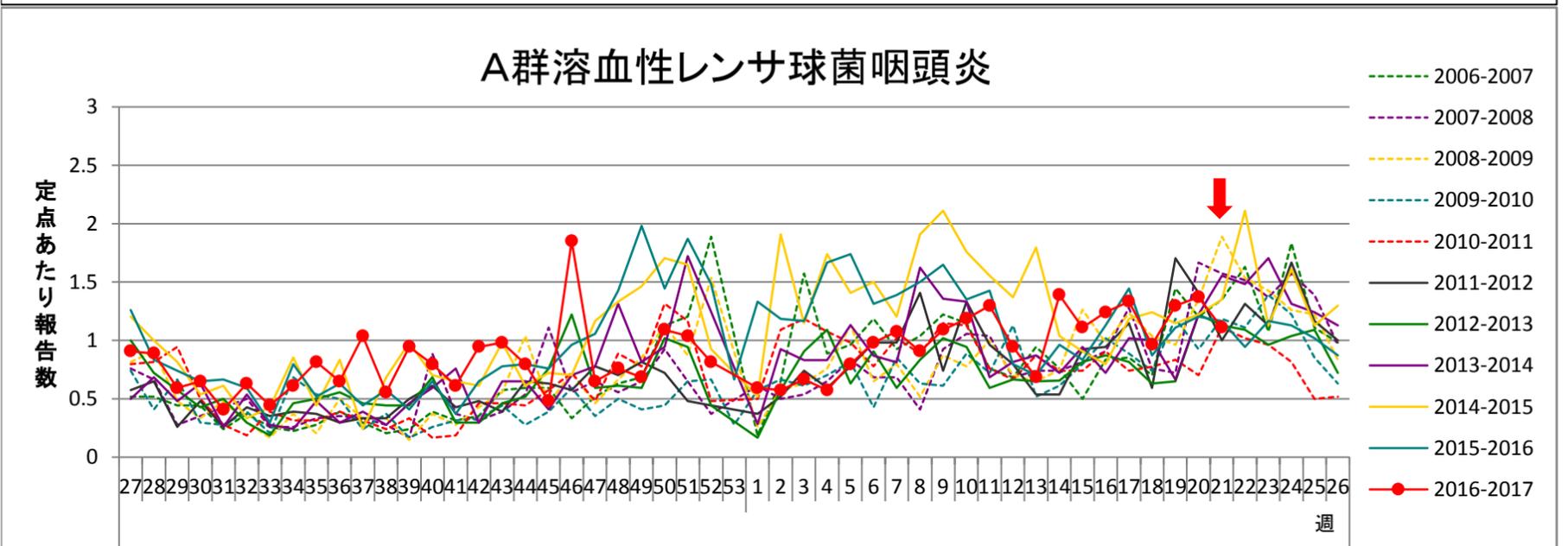
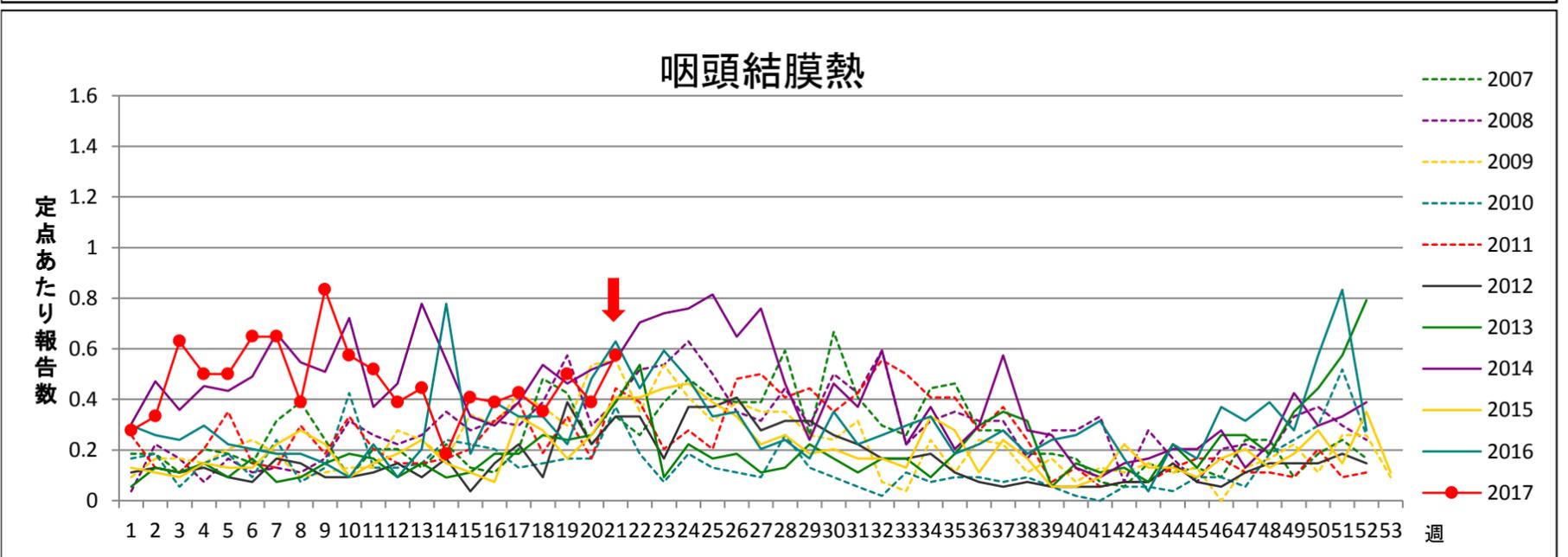
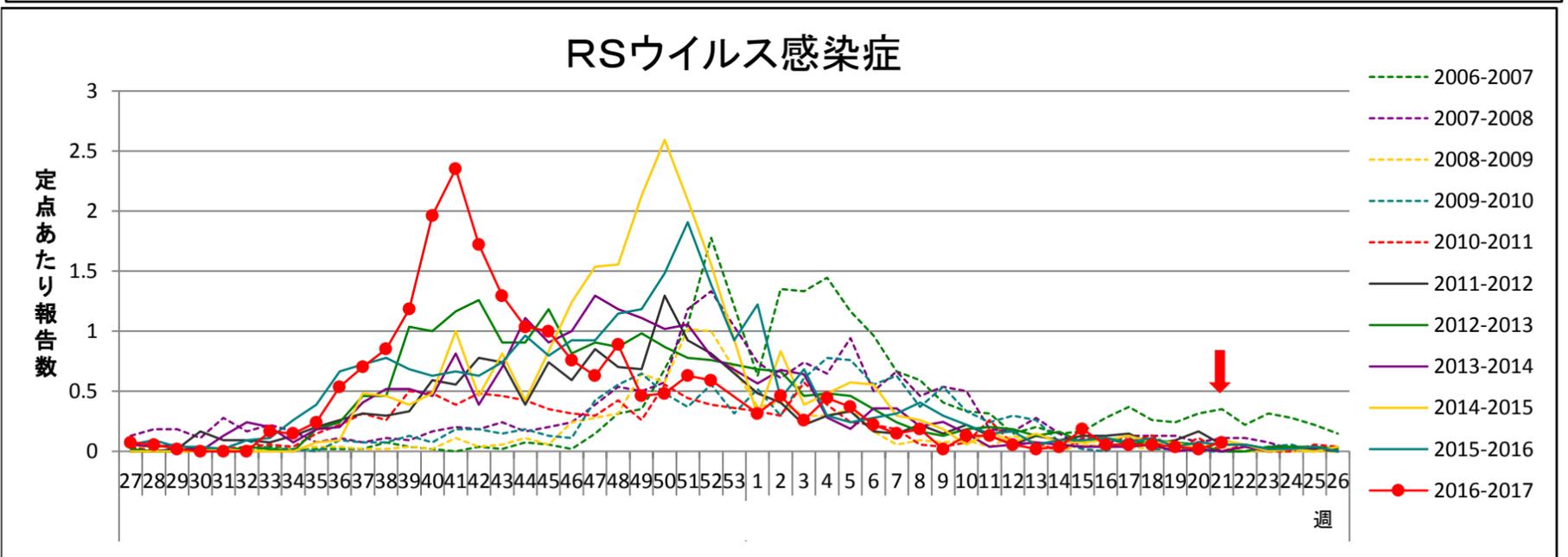
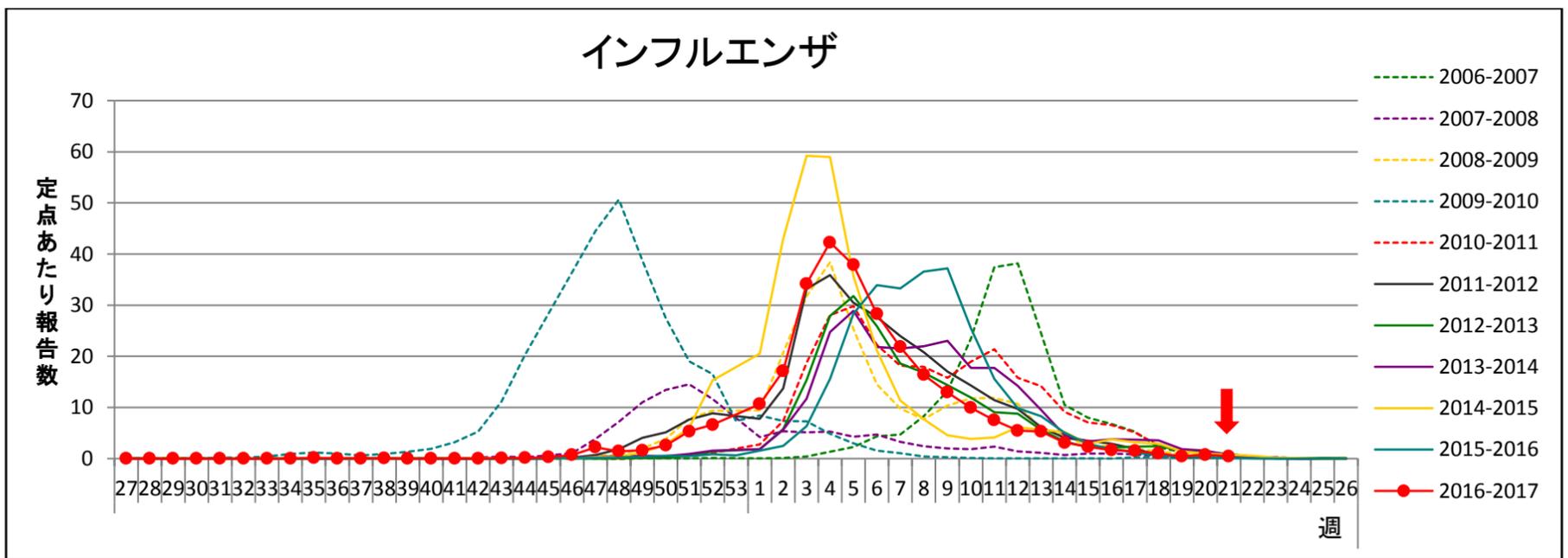
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	40	-	-	-	2	7	9	7	3	-	1	1	3	-	1	5	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	31	-	3	13	5	4	2	2	-	-	-	-	2	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	-	2	3	3	5	5	16	8	4	6	-	5	1	2
感染性胃腸炎	338	3	37	53	45	29	34	28	17	11	6	7	23	9	36
水痘	28	1	3	3	2	1	1	11	3	-	1	1	1	-	-
手足口病	44	1	4	21	9	5	1	-	1	-	-	-	1	-	1
伝染性紅斑	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	28	-	12	15	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	21	-	6	5	4	2	3	-	-	-	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	23	-	-	1	2	1	2	4	1	6	3	1	1	-	1

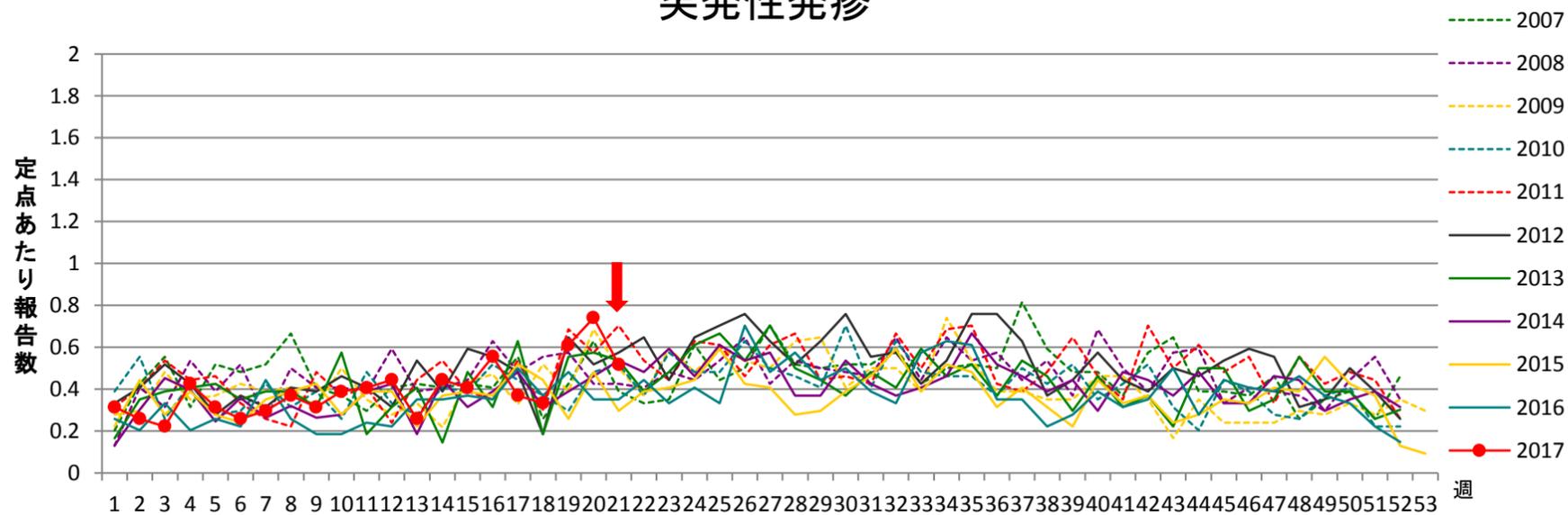
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	23	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	1	1	4	1	1	2	1	8

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

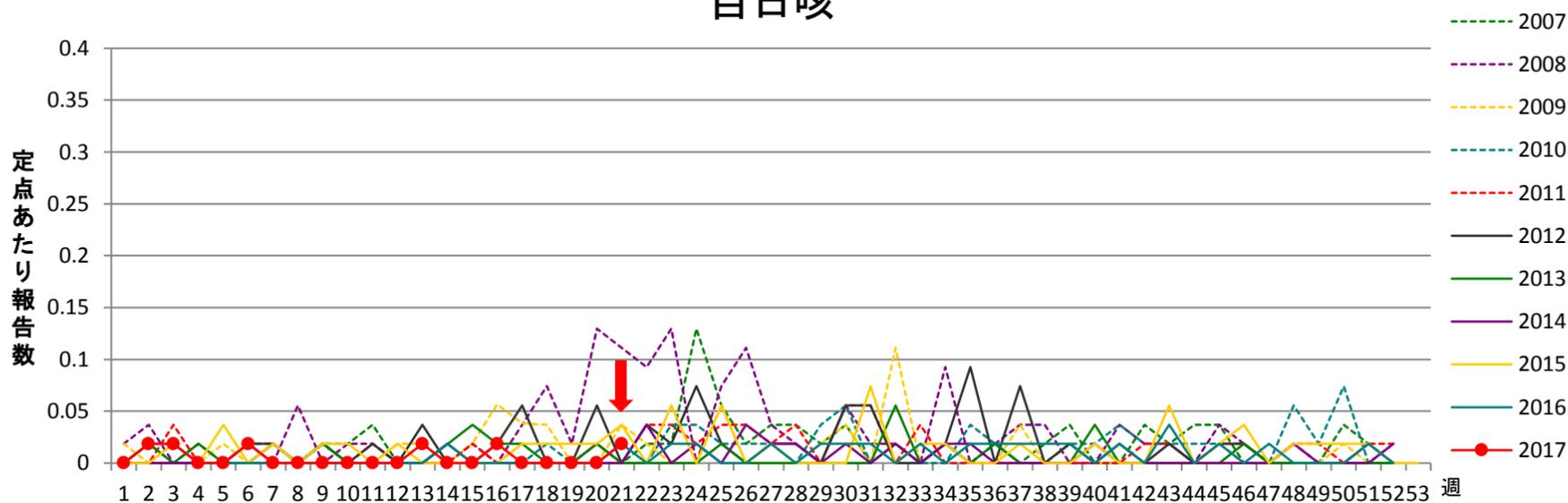
(- : 0)



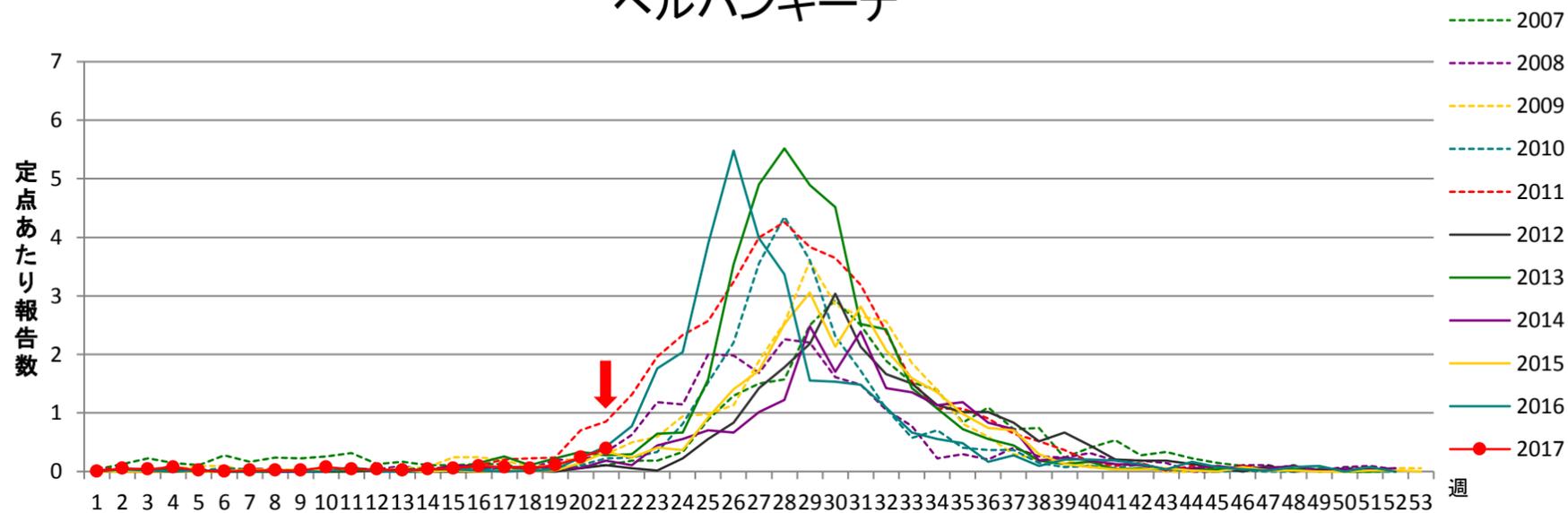
突発性発疹



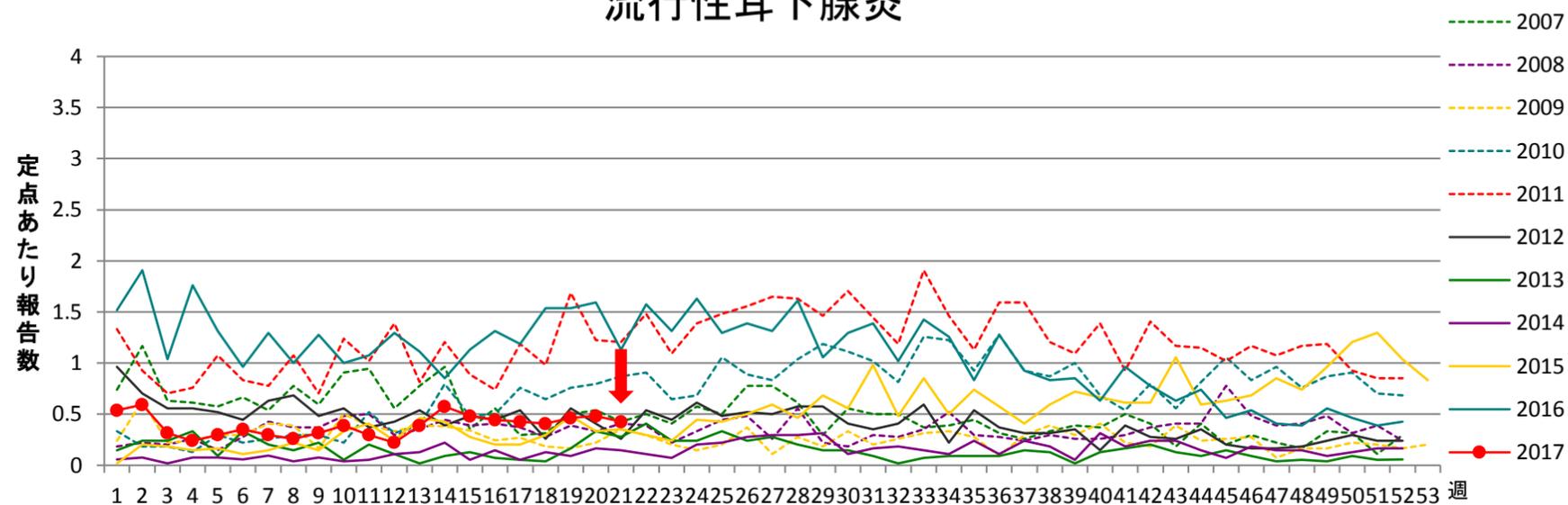
百日咳



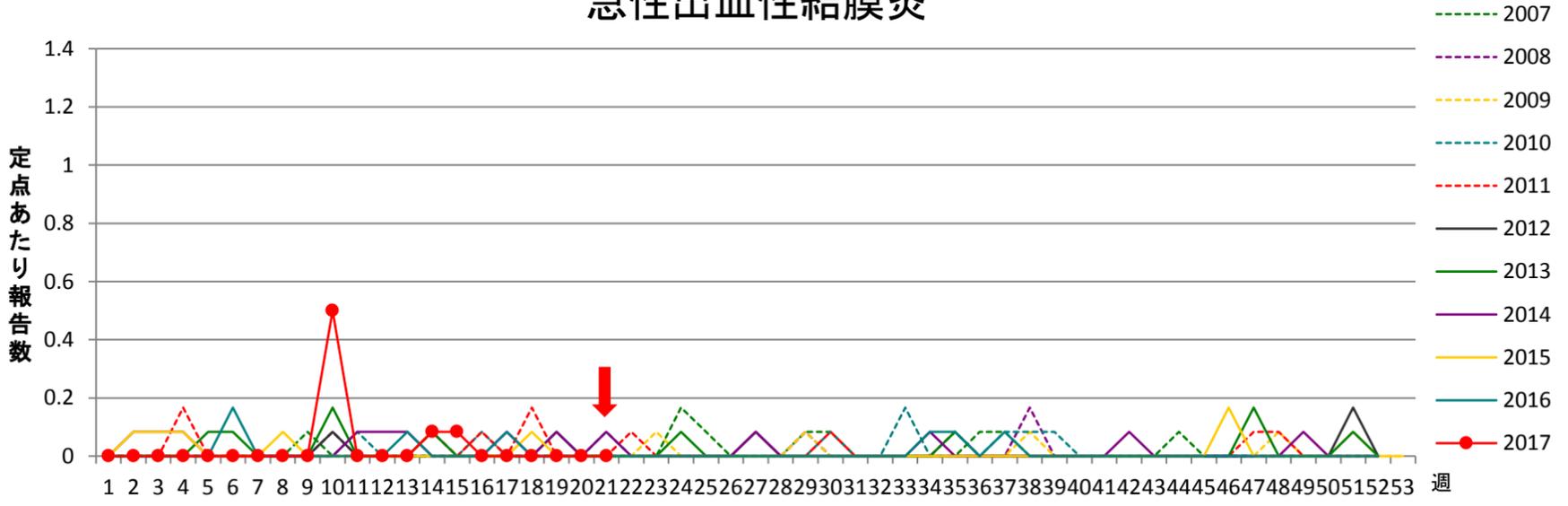
ヘルパンギーナ



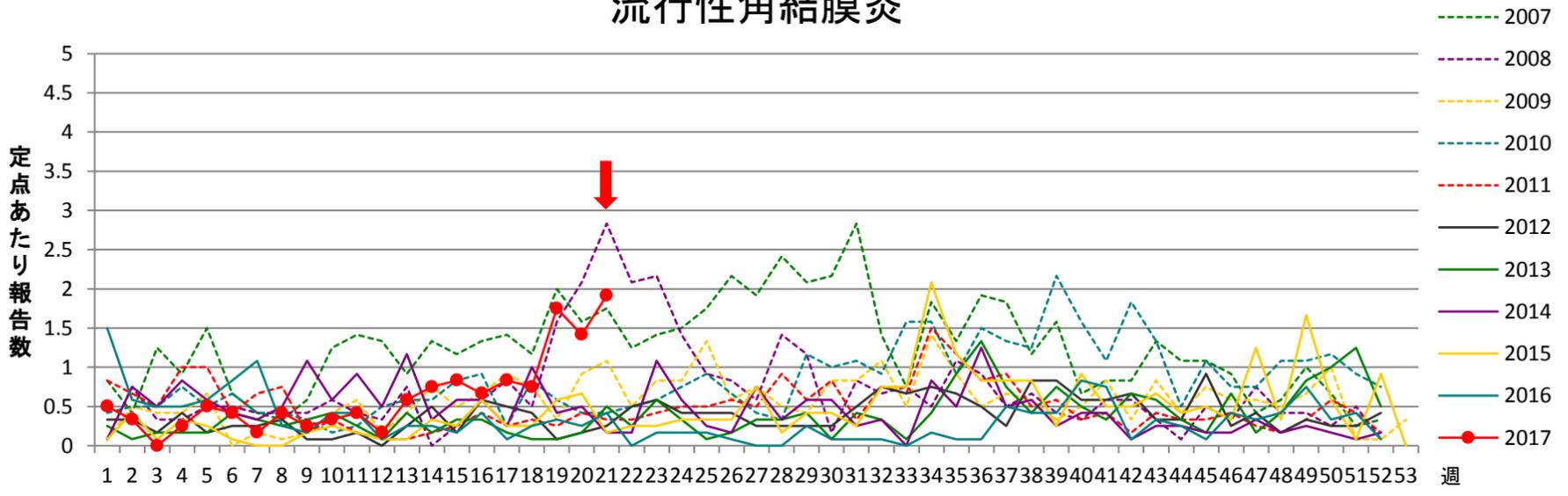
流行性耳下腺炎



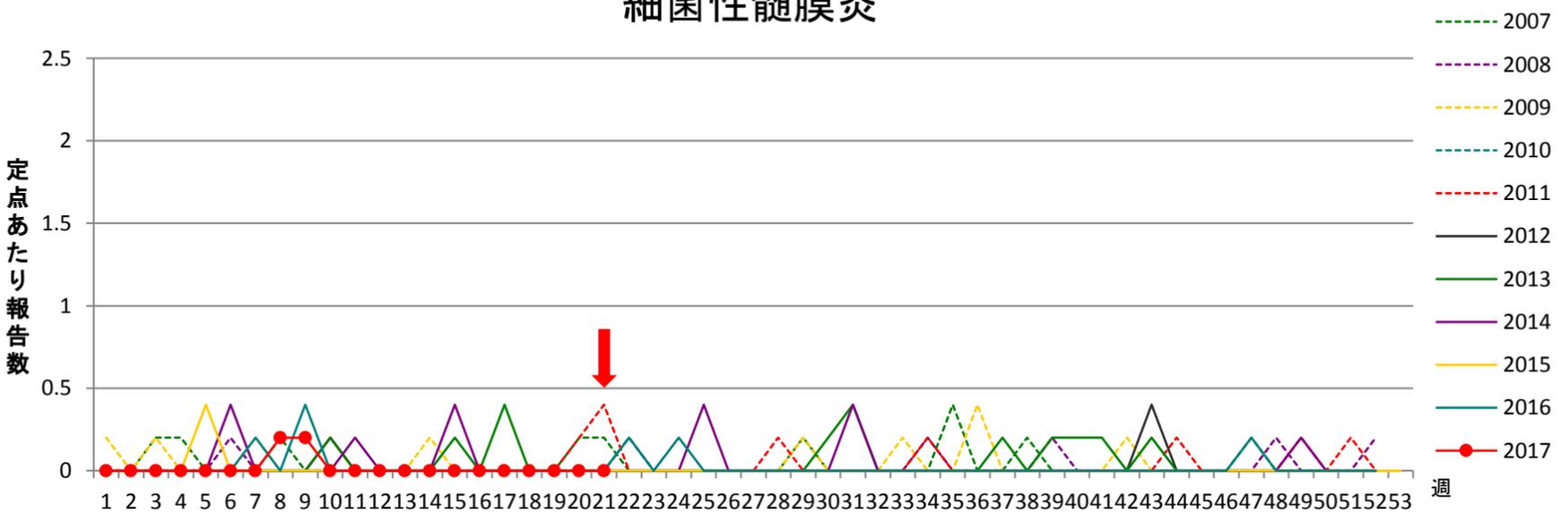
急性出血性結膜炎



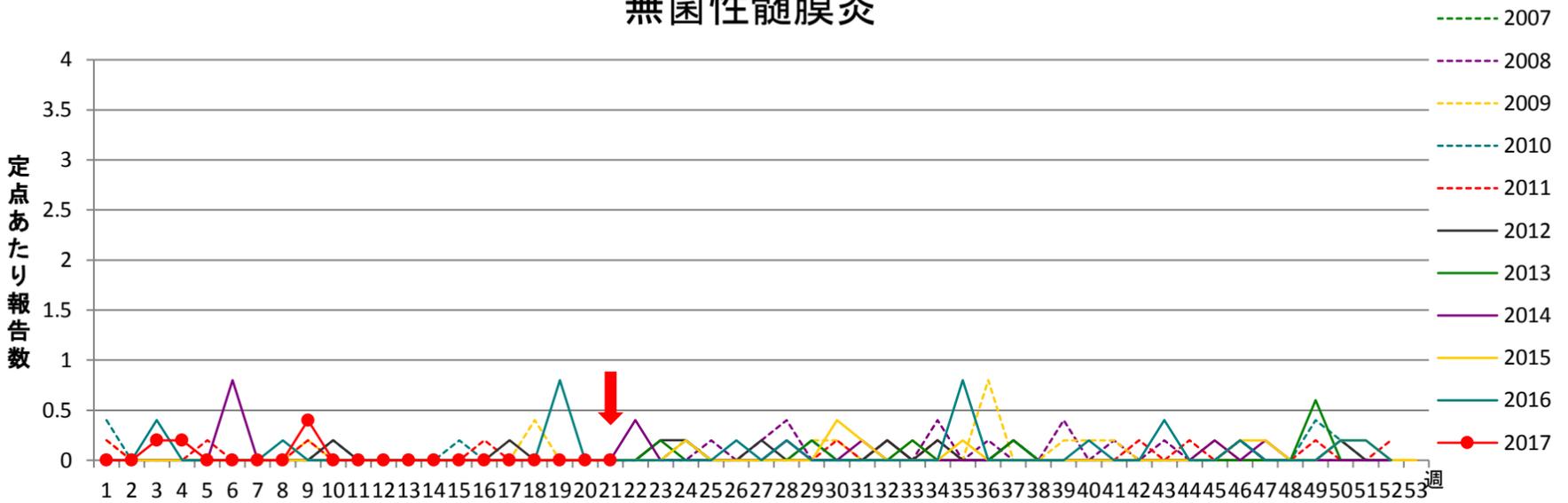
流行性角結膜炎



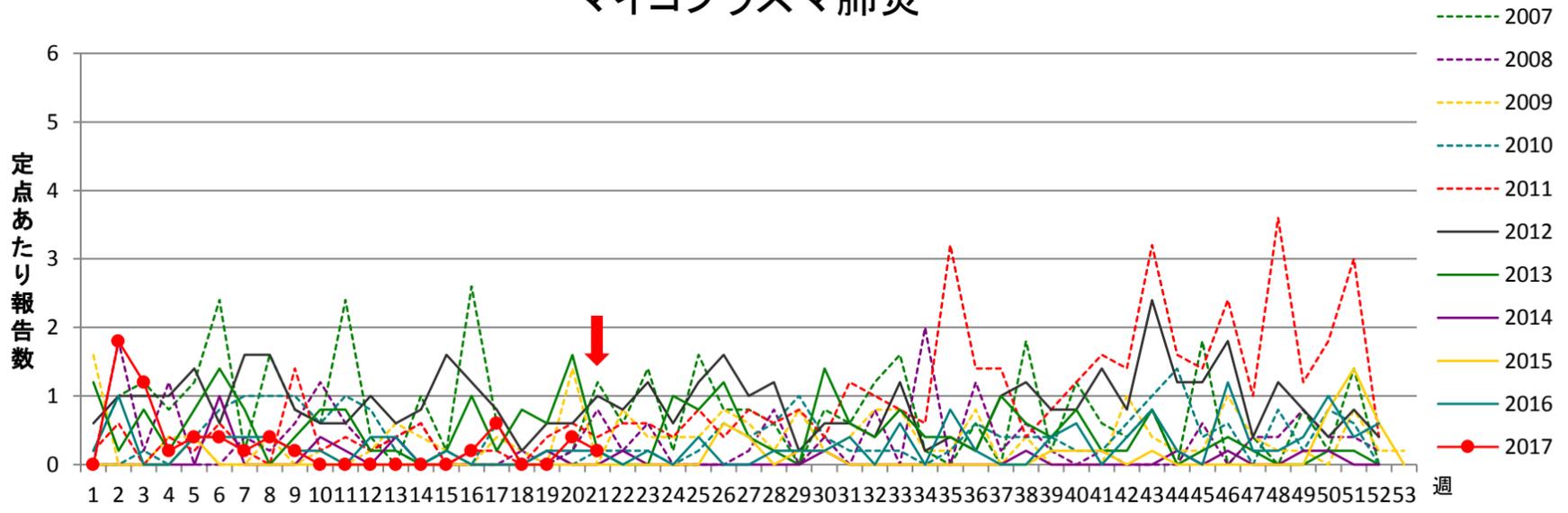
細菌性髄膜炎



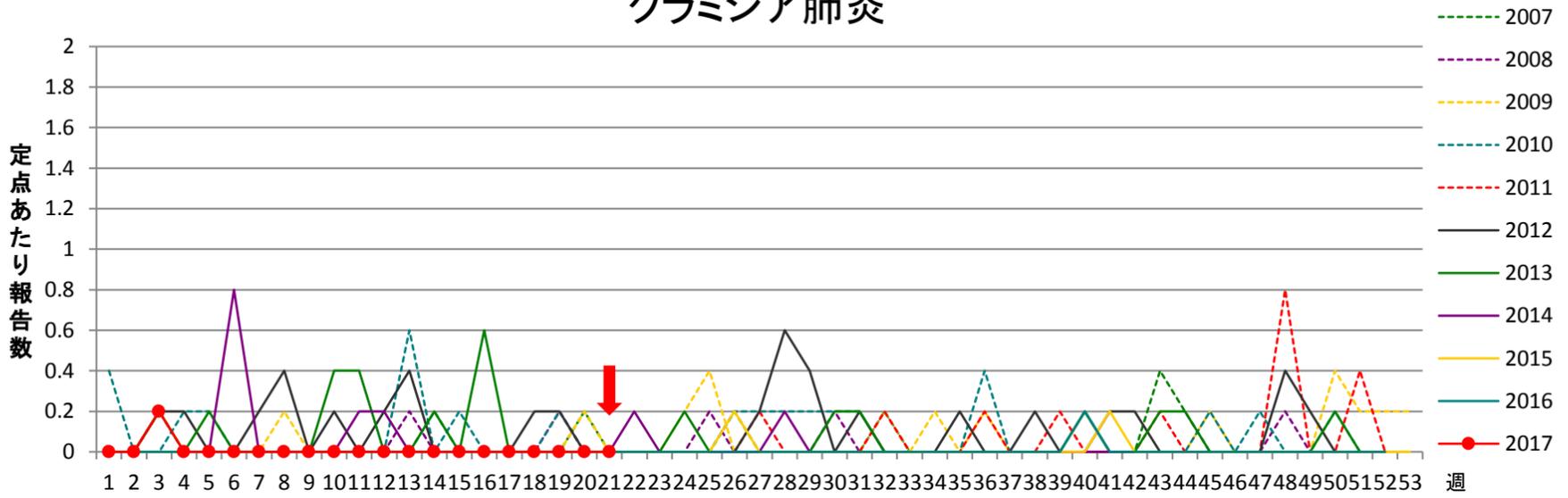
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

